

「2023年度決算R説明会」主な質疑応答

<柏崎刈羽原子力発電所について>

Q：柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に向け、こういった取り組みが必要か。

A：現在、プラントの安全性を確保するため、ステップバイステップで健全性確認を進めているところ。引き続き、安全性の取り組みについて、様々な機会を通じてしっかりとご説明していくことが重要。

<総特改定・アライアンスの進捗について>

Q：アライアンスは次期総特の重要なポイントだが進捗はいかがか。次期総特において債権者や株主への要請内容が変わる可能性はあるか。

A：安定供給とカーボンニュートラルを両立し、企業価値を高めていくためにはアライアンスが必要と認識しており、検討を進めているところ。アライアンスにおいては、パートナーと価値観を共有しながら進んでいくことが重要であり、協議をしている案件もあるが、現時点で具体的に話せる状況にはなく、詳細の回答は控えさせていただく。総特改定内容も今後の検討事項。

<小売事業の競争環境・調達リスクについて>

Q：小売販売について、足元の競争環境をどう考えているか。また、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働が不透明な中、EPの調達リスクについてどう考えるか。

A：競争環境について、2022年度の燃料高騰を受け、それ以前の過度な値下げ競争は収まっている印象。

調達リスクについては、リスクと調達状況をお客さまにもご認識いただきながら、デマンドレスポンスを活用することなどにより、リスクを最小限にすることが重要。

<特別負担金について>

Q：2023年度の特別負担金2,300億円はどのように算定されたのか。

A：特別負担金については、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が、法令の定めによって決定し、当社に通知するものであると認識しており、当社として詳細な算定方法は承知していない点、ご理解いただきたい。

<ROICについて>

Q：ROICはいくつか。どのようにROICを向上していくつもりか。

A：今年度のROICは2.1%。

具体的な目標設定や目標達成のための施策、マイルストーン等については、今後の外部環境の変化等を踏まえて議論していくため、現時点で具体的な公表時期等の回答は致しかねるが、取りまとめ次第、お示しさせていただく。

以上